

令和4年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 離島・へき地部会議事要旨

日 時：令和5年2月7日(火)15:35～17:00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：13名

松村敏信(県立宮古病院)、菊池馨(県立八重山病院)、赤松道成(北部地区医師会病院)、新崎博美(県立宮古病院)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、我如古春美(北部地区医師会病院)、朝倉義崇(県立中部病院)、戸板孝文(県立中部病院)、真栄里隆代(ゆうかぎの会)、砂川洋子(ゆうかぎの会)、石田浩子(県立八重山病院)、田盛亜紀子(やいまゆんたく会)、増田昌人(琉球大学病院がんセンター)

欠 席：5名

友利寛文(那覇市立病院)、吉田幸生(県立中部病院)、黒島富士子(やいまゆんたく会)、有賀拓郎(琉球大学病院)、安次嶺宏哉(沖縄協同病院)

陪 席：3名

比嘉優花、並里亜衣、仲村愛美(琉大病院がんセンター)

〈報告事項〉

1. 令和4年度 第3回離島・へき地部会議事要旨について

松村部会長より資料1に基づき、令和4年度第3回離島・へき地部会議事要旨について説明があり、変更等があれば事務局へ連絡するよう説明があった。

2. その他

特になし。

〈協議事項〉

1. 第4次 沖縄県がん対策推進計画(協議会案)について

増田委員より資料2に基づき、沖縄県がん計画のロジックモデル、離島及びへき地対策についての説明があった。がん対策推進計画の策定のため、離島・へき地部会のがん対策について意見を伺いたいとの説明があった。

菊池副部会長より中間アウトカムの「診療病院は拠点病院と連携し、標準治療を提供できている」という内容に関して、地域全体で標準治療ができているという解釈でいいのかとの質問に対し、診療病院単独だと考えているとの説明があった。

赤松副部会長より北部では診療病院だけではなく他の病院もがん治療の対応をしているので、診療病院単独よりは二次医療圏として連携をとって見ているかという記載がいいのではとの意見があった。

「診療病院は拠点病院と連携し、標準治療を提供できている。」という文に「二次医療圏」

も加筆するという事で意見がまとまった。

菊池副部長より初期アウトカムのがん種について、ある程度、症例数が多いがんも目標にあげたほうがいいのではないかとの説明があった。

戸板委員より県内では子宮頸がんが多いため、婦人科がんをぜひ加えていただきたいとの意見があった。

朝倉委員より血液がんの症例数は多くなっているとの説明があった。

この先も離島で血液がんの治療が継続できるようにするためには、血液がんも追加していただきたいとの説明があった。

がん種については、胃、大腸、肺、乳房、前立腺、肝・胆・膵に、血液がんと婦人科がんを追加するという事となった。

増田委員よりこのがん種に対して標準治療ができているという目標を達成するために必要な設備は何か、医師や看護師、薬剤師などの職種が何名必要か等をごん計画に入れたいとの説明があった。分野ごとに医師や看護師は何名必要か、各病院で考え事務局へ報告、もしくは事務局から連絡をすることとなった。

2. 3 地域の課題について

松村部長より北部地区医師会病院、県立宮古病院、県立八重山病院の認定看護師、認定薬剤師の数について課題があると資料3に基づき、説明があった。

真栄里委員より、認定看護師がいれば専門的な知識に基づいて看護ケアができる。患者や病院にとってもメリットがあるので、どの病院にも必要だとの意見があった。

朝倉委員より研修支援などができれば、認定看護師や認定薬剤師が増えるのではないかという意見に対し、松村部長より、今回は施策であげているがん種の標準治療を提供するために必要な設備は何かということ、医師や看護師などそれぞれの職種であと何名必要なのかということをごん各病院で考えた文書を作成することで、今後の医師の派遣や認定看護師、認定薬剤師等の要請につながっていくのではないかとの意見があった。

3. 療養場所ガイドについて

増田委員より療養場所ガイドの改訂について説明があった。

「がん種別の療養場所」の○×△表について各病院で内容を確認し、問題がないか報告していただきたいとの説明があった。

4. 医療者調査について

増田委員より文書を改稿し、来年度、医療者調査を行う予定でいるとの報告があった。

5. その他

特になし。